# 子どもの貧困

## 国連　持続可能な開発目標（SDGs）

持続可能な開発目標（SDGs）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。（外務省HPより）

- 2030年までに、あらゆる次元の貧困状態にある、すべての年齢の男性、女性、子どもの割合を半減させる。
- 適切な社会保護制度および対策を実施し、2030年までに貧困層および脆弱層に対し十分な保護を達成する。
- 2030年までに、貧困層や脆弱な立場にある人々のレジリエンスを構築する。
- 各国、地域、および国際レベルで、貧困層やジェンダーに配慮した適正な政策的枠組みを設置し、貧困撲滅のための行動への投資拡大を支援する。

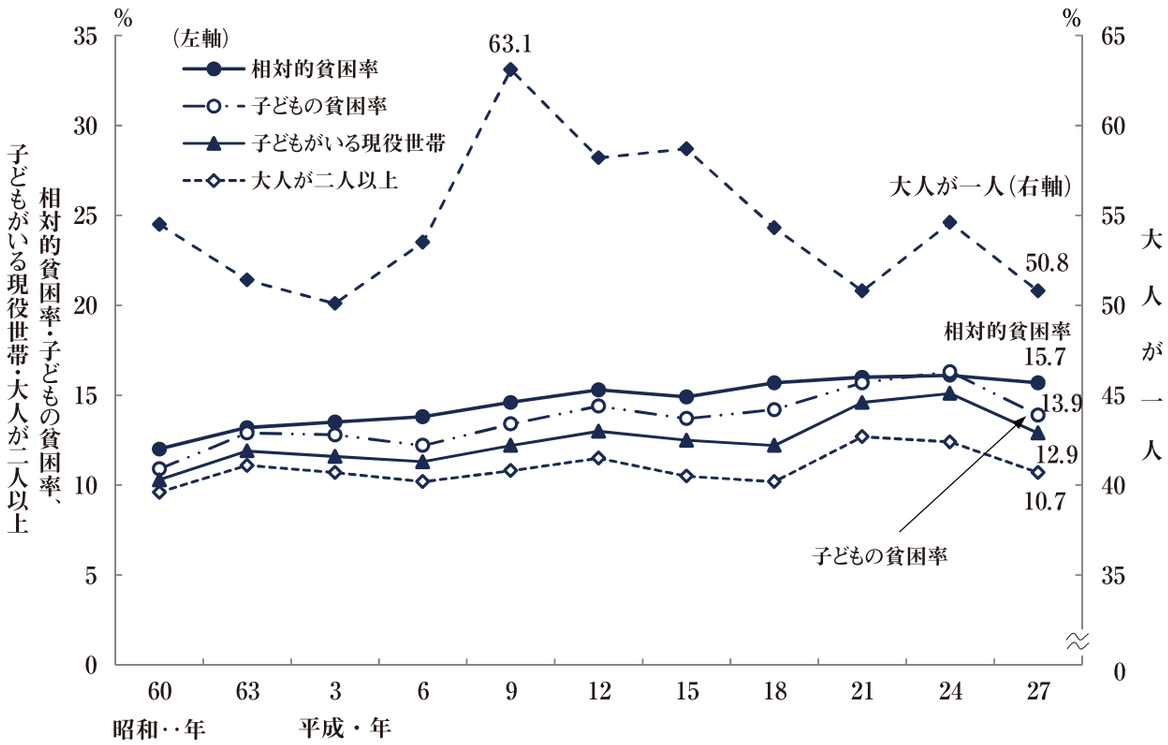
## 国連　子どもの権利条約

国連「子どもの権利条約」に日本も批准し、児童福祉法の理念となっています。「子どもの貧困」に関連する条文は次の通りです。

| | |
|---|---|
| 第３条 | 子どもの最善の利益が保障される権利 |
| 第６条 | 子どもの生きる権利及び生存及び発達の権利 |
| 第18条 | 子どもの養育及び発達についての保護者の責任と保護者を支援する国の責任 |
| 第24条 | 健康を享受すること等についての権利 |
| 第26条 | 社会保障からの給付を受ける権利 |
| 第27条 | 子どもの発達に必要な相当な生活水準についての権利 |
| 第28条 | 教育についての権利 |
| 第31条 | 休息、余暇及び レクリエーション活動、文化的生活、芸術活動についての権利 |

# 日本における子どもの貧困の現状

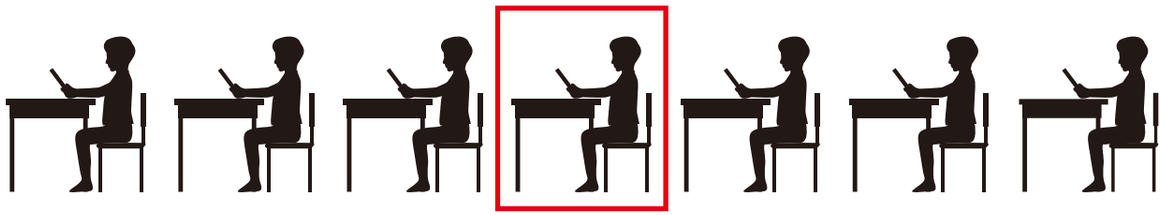
## 日本における子どもの貧困率




注：1)　平成６年の数値は、兵庫県を除いたものである。
2)　平成27年の数値は、熊本県を除いたものである。
3)　貧困率は、ＯＥＣＤの作成基準に基づいて算出している。
4)　大人とは18歳以上の者、子どもとは17歳以下の者をいい、現役世帯とは世帯主が18歳以上65歳未満の世帯をいう。
5)　等価可処分所得金額不詳の世帯員は除く。

出所：厚生労働省「国民生活基礎調査の概況」平成29年６月27日

**７人に１人の子どもが相対的貧困の中にある。**



## 貧困の定義

**絶対的貧困**

どのような社会においても変わらない。肉体的サバイバルが脅かされる状態。

**相対的貧困**

その人の生きる社会において、一人の社会の構成員として機能できない状態。社会生活に必要な資源が欠けている状態。

## 国の子どもの貧困対策

# 徳島県における子どもの居場所づくり

## 徳島県「子どもの居場所」づくり推進ガイドライン（抜粋）令和元年5月29日策定

**1 目的**

このガイドラインは、徳島県における民間主導により展開する「子どもの居場所」づくりの取組みを各地域に広げるため、県民、関係団体、県及び市町村が連携・協力し、持続可能な運営とする仕組みをつくることを目的とする。

**2 「子どもの居場所」の定義**

「子どもの居場所」とは、地域の大人との継続的な交流ができる、子どもたちにとって安全で安心な居場所であり、信頼関係のもとでの様々な活動を行う中で、すべての子どもたちが夢や希望をもって健やかに成長していける場である。原則として、18歳に満たないすべての子どもや家庭を、地域で見守る子どもたちの居場所である。

(1)民間主導で進められる「子どもの居場所」

○無料または安価で栄養のバランスが良い食事や温かな団らんを提供する子ども食堂・ユニバーサルカフェなど誰もが参加できるもの

○子ども会、青少年活動団体、プレイパークなど

(2)子どもたちの放課後の生活を支える施策

放課後児童クラブ、放課後子供教室、地域未来塾、児童館、子どもの生活・学習支援事業など

(3)その他、地域の実情に合わせた多様な「子どもの居場所」

**3 「子どもの居場所」の機能・役割**

(1)地域の中での「子どもの居場所」

○「子どもの居場所」は、子どもの人権に十分に配慮し、子ども一人ひとりの人格を尊重し、子どもに影響がある事柄に関して、子どもが意見を述べ参加できるようにする。

○子どもたちに、安心できる居場所を提供し、地域で見守りを行う。

○子どもが遊び、学習活動及び読書活動などを自主的に行える環境を整え、必要な支援を行う。

(2)日常の生活支援

①子どもの健やかな成長と健康を保障する

○食事や学習、会話、レクリエーション活動を通して生活習慣を身に付けたり、周囲の人との関わる力を身に付ける。

○信頼できる大人と活動をともにする中で、自信や意欲、自己肯定感など心理的な安定をはかる。

○「子どもの居場所」が、子どもたちにとって安心できる真の居場所となるよう努める。

②社会のルール等を身につける

○年齢の違う子どもたちと一緒に遊ぶ機会を提供し、子どもたちが集団で一緒に過ごす中で、協力及び分担や決まりごと等の必要性を理解し、主体的に行動できるようにする。

○手洗いやうがい、持ち物の管理や整理整頓等の基本的な生活習慣が身に付くように支援する。

○子どもたち自身が自分たちで活動を計画したり実行したりする機会をつくり、子どもの自主性や意欲が高められるよう支援する。

○子どもの年齢に応じて、子どもたち自身が調理をする機会をつくり、自分で調理ができるようにする。

③共食機会の確保

○子どもの孤食や欠食を防ぎ、地域の人々と一緒に食事を楽しむ団らんの機会を提供する。

(3)保護者の子育て支援

○仕事などにより時間的に余裕がない保護者に、少しでも子どもと向き合う時間を持ってもらえる工夫を行う。

○子育て等について保護者が相談しやすい雰囲気づくりを心掛ける。

○仕事などで家庭にいない保護者が安心できるよう、家庭で子どもだけで過ごす時間が少なくなるよう工夫を行う。

(4)配慮を必要とする子どもへの対応

○家庭に事情のある子どもの地域における見守りの場として、子どもがより参加できるよう、関係機関や地域などと連携する。

○子どもや家庭状況について特別な支援が必要であることの早期発見に努め、把握した場合は、市町村・福祉事務所・児童相談所などの行政機関につなぐ等の対応を行う。

(5)地域の人々と交流できる機会の提供

①遊び、学び、触れ合い

○製作活動や伝承遊び，地域の文化にふれる体験等の多様な活動や遊びを工夫する。

○子どもが身近なテーマを学び、学ぶことの楽しさを感じる機会を提供する。

○地域の人たちと一緒に遊んだり、食卓を囲んだりして、交流を深める。

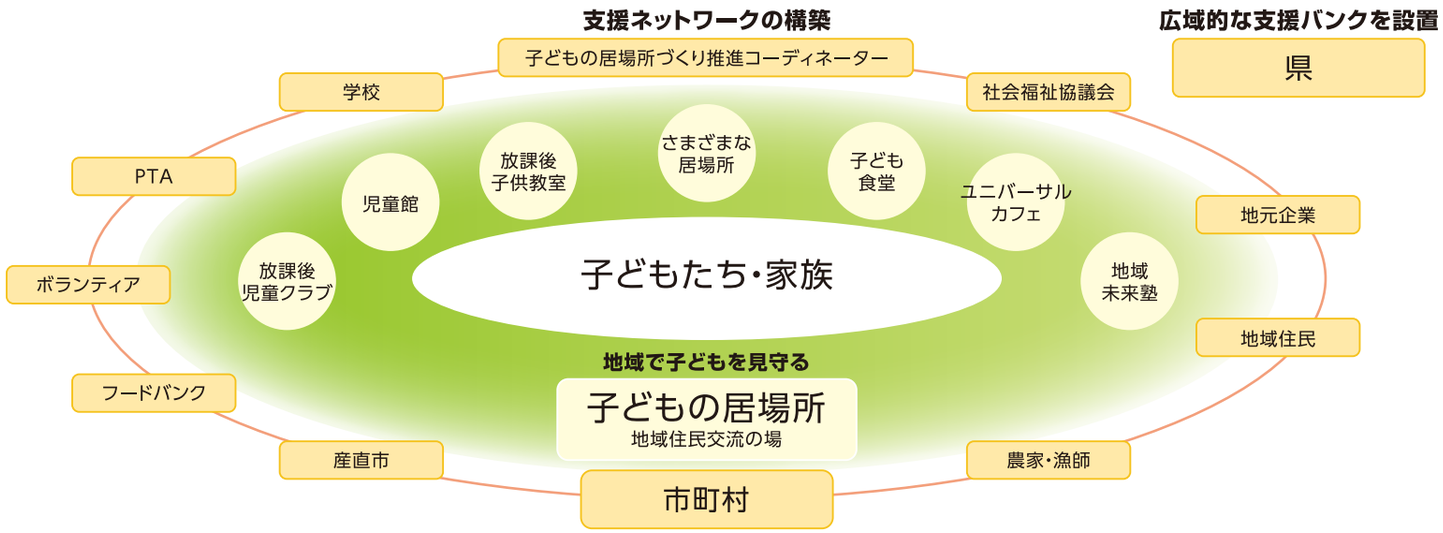
○保護者や学校、地域の人たちに活動について理解を深めてもらうため、活動や行事に参加する機会を設ける。

②食育

○食事を提供する場合は、栄養バランスを考慮する。

○自分で調理をすることで、行事食や郷土料理、地産地消、フードロスなどについて知る機会を提供する。

○食文化について知るなど豊かな食を育む機会を提供する。




徳島県・社会福祉法人徳島県社会福祉協議会・国立大学法人鳴門教育大学

# 鳴門教育大学 学部・大学院の授業での取組

## 「NHKスペシャル:見えない“貧困”～未来を奪われる子どもたち～」を題材に

### 「子どもの貧困」って どんなイメージ?

・現代の日本の社会の中で“貧困”な状態にある子どもなんているだろうか?
・自分の身近には感じたことがない。
・自分の身の回りではあまり聞かない。
・子どもや保護者のつぶやきから漠然と感じることはあった。
・助けを求めない?
・経済的に困っており、十分な養育ができない。
・子どもを産んでも育てられない。
・病院に行けない　・進学の幅が狭まる

### 「貧困」の中で生きる 子どもたちの姿や思い

やりたいことを我慢する
習いごとや部活動をしたいけど・・・あきらめる
社会の厳しさを知り、夢が持てない
進学したい。自分の努力で合格できても、入学金が払えない
奨学金 教育ローン
自分の心を我慢させて、あきらめている
頑張っても報われない
大人になりたくない
自分には価値がない
友達と遊びたいけど・・・家に帰って家事をする
友達に気を遣う
母を、家族を助けたい
自信が持てない
家族旅行に行けない
困っている雰囲気を出さない
外には見えないようにしている
生活を支えるためにアルバイト
学校から帰っても一人・・・
親が頑張っていることが分かっているから、言えない。
しんどい
どこにぶつけて良いか分からないつらさ
さみしい
親と一緒に過ごす時間を我慢

### VTRの中から・・・

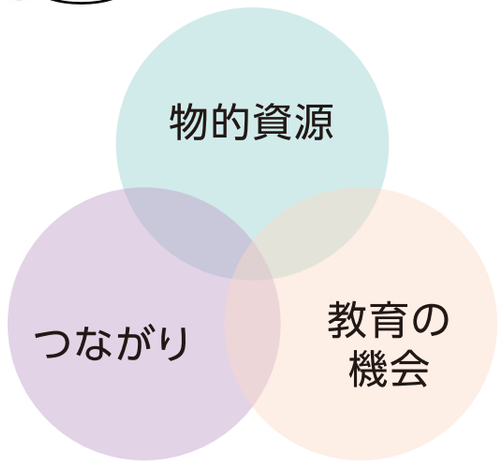
自助努力の限界

子どもが子どもらしく生きられる社会

100通りの違いが格差であってはいけない

### 「貧困」の中で生きる 親の思い

子どもを大人にしてしまって申し訳ない
習い事に通わせるお金がない
お米が買えるかもと思ってしまう



# 鳴門教育大学 学部・大学院の授業での取組

## “全ての子どもが子どもらしく生きられる社会・私達に何ができる?”

**全ての子どもが**
**子どもらしく生きられる社会**

教師である私たちに何ができる?
教育の現場で何ができる?

### 学校全体での取組

**■居場所としての学校づくり**
学校が楽しいと思える場所になるようにする
学校が居場所になるように環境を整える
学校が避難場所となるように環境を整える
安心して過ごせる学校づくり

**■学校カウンセラーの積極的活用**
全ての子どもが学校カウンセラーとの時間をもつ

**■学校でできる経済支援**
衣服(制服)を提供する支援
部活動・社会体育に対する援助(用具・費用)
学校に残る給食を持って帰っても良いことにする

**■学校の場の活用**
子育て支援の場として開放する
園庭・校庭の開放
学校を核としたコミュニケーションの場づくり

### 授業づくり

**■「子どもの貧困」を授業で取りあげる**
「子どもの貧困」の内容を授業で取り扱い、自分だけじゃないということを知らせる
学校の授業で「子どもの貧困」を取りあげる
貧困がどのようなものであるか知ることができるよう啓発する
身近な貧困の実態を知り、伝え、行動する

**■子どもの学力の保障**
子どもの学力を保障する
学習支援をする
学校の勉強を理解できるようにするための学力をつける

**■社会性向上のための教育**

**■犯罪予防のための教育**

**■自己肯定感を育む道徳教育**

**■栽培の授業の充実**
学校で栽培の授業を増やし野菜を持って帰る
栽培の授業を通してベランダで野菜を作るよう指導する

**■家事についての教育**
家事の仕方を知る
家族のために家事をすることは良いことであると伝える

**■お金についての教育**

**■職業に対する考え方の教育**

**■授業で使う準備物への配慮**
授業で使う準備物(調理実習・工作・実験)など家庭の経済力の差を感じさせない教育的配慮をする

### 学級経営

**■子どもと教師の関係づくり**
子どもが教師と相談しやすい関係づくりをする
子どもの思いによりそい、話を聴く
何かのお手伝いをしてもらいながら、話を聞く
話を聴く
気になる児童には、十分に気を配り、コミュニケーションをとる
スキンシップをとる
子どもの放課後過ごしている場を時々訪問する

**■家庭環境を把握する**
その子の家庭の様子を知る
家庭環境を把握する
学級の子どもたちと家庭のことを話すようにする
スマホを持っているからといった持ち物だけでなく、家庭全体を知る
「子どもの貧困」のアンテナを敏感にする
家庭環境調査票などの情報を十分に心に留める

**■周囲とのつながりを感じることのできる学級づくり**
子どもが自分を支えてくれる存在を実感できるようにする
自分と周囲の人とのつながりを実感できる援助をする

**■学校での「食育」の充実**
朝食やおやつの提供
友達や教師と楽しく会話しながら食べる

**■生徒指導における配慮**
好きなこと・得意なことを発揮できるようにする
目標を持てるようにする
子どもの夢を一緒に考え応援する
子ども一人一人の良さや可能性に目を向けた教育の在り方を考える
一人一人を認める言葉がけをする
努力できる環境をつくる
努力が報われる経験をする
弱点を克服するための援助をする
「大人っていいよ〜」という肯定的なメッセージを送る

### 家庭支援・保護者支援

**■保護者支援**
保護者の不安や悩みを聴く
保護者と連絡帳を通した関係づくりをする
連絡ノートの活用
保護者と話す機会に「子どもの貧困」という視点をもちつつ臨む
受けられるサービスを一緒に探す
悩みや不安を解消できる選択肢(制度・サービス)を伝える

**■関係機関と家庭をつなぐ**
学校や幼稚園での相談会の開催
相談窓口を増やす
要保護対策協議会の活用
民生委員・児童委員の方との連携
種々のサービスや機関と家庭をつなぐ
福祉関係機関の情報提供
学校が積極的に地域とつながって情報収集
福祉行政とつながりを持てるような場を増やす
子ども食堂の手伝いに行く

### 専門性の向上

**■知識を得る**
子どもの貧困問題について学び、知識を持っておく
貧困に対する情報や知識を得る
新聞を読む
学校教職員が法律・支援制度などを勉強する

**■研修会の開催**
子どもの貧困についての研修会を開く

**■専門スキル(技術)の向上**
一人一人の教師の専門スキルを高める
身近な子どもの貧困の実態に気付くことができる
教職員が地域のボランティアに参加する

**■倫理・人間性**
好印象を与える教師になる
相談したくなる教師になる

徳島県・社会福祉法人徳島県社会福祉協議会・国立大学法人鳴門教育大学

# 徳島県内の子どもの居場所

**1**. 始めたきっかけは？　**2**. どんな人が運営に関わっている？　**3**. 運営するにあたって大切にしてること　**4**. 運営していて、嬉しかったこと　**5**. より良い居場所づくりのために　**6**. 地域や近隣との関わり　**7**. 子どもにとっての居場所とは？　**8**. あなたにとってこの場は？

地元の食材を使った手作りのご飯。主菜だけでなく副菜やデザートもついており栄養バランスが考えられた献立になっている。おかわりもできるようにたくさん準備されており、お腹いっぱい食べて帰ることができる。

## わくわくキッチン（鳴門市）

**1** 小学校で「放課後子ども教室」を4、5年ほどやっていて、その教室を一緒にしているメンバーで、子ども食堂をする？となって、やらないと！って思った人たちで自然発生的に始めました。そんな話をしていたら、市からも補助金がもらえることになり、社協さんの管理されている公民館も使わせてもらえることになりました。

**2** 小学校で「放課後子ども教室」に関わっているメンバーが中心です。他にも教室の運営を通して出会った地域の方や小学校関係の方、PTAの方などにも手伝ってもらっています。近くの鳴門高校の高校生もボランティアに来てくれます。

**3** ここに来る子どもたちがゆっくり過ごせたらいいなぁ、と思っています。またこの子ども食堂に携わるスタッフの誰もが、一人でも多く子どもたちにのびのびと過ごして欲しいと願って、しています。

**4** 子どもが、にこにこして帰ってくれることが一番うれしいですよね。

その日のメニューに使われている食材が、誰から提供されたものなのかを記載し、廊下に貼っている。

食材のほとんどが、さまざまな人や会社から提供された、地元の食材である。

シアター用のスクリーンもあり、アニメや映画が映し出されている。座ると、食事を運んできてくれる。好きな時に食べ始めて、好きな時に食べ終わって、部屋にあるおもちゃで遊んだり、話をしたりしている。食事はたくさん準備されており、「おかわり欲しい。」という声も聞こえてきた。

わくわくキッチンが開催される公民館の入り口。公民館に入ると、子どもたちの笑い声が聞こえ、おいしいご飯のいい匂いが漂っている。

設立年日／2018年11月
開催日／月1回
主催者／近隣の小学校PTAのOB
利用者／近隣に住んでいる方が中心
食事内容／地元の食材で作られている
料金／子ども無料・大人300円

**5** 制約がなく使うことのできるお金を補助してくれると大変助かるなぁと思います。場所も私用地で開設できたら、キッチンや備蓄に困らないだろうなぁと思います。

**6** 社協の人に声をかけたら、食材を持ってきてくださったりとか、たまに近所の老人会の人がご飯を食べに来てくださったりとか。鳴門高校からも、ボランティア活動の一環で、来てくださったりします。今後は近隣の自主防災組合の方々と一緒に防災訓練もできたらと考えています。

**7** 難しいことは分からないけれど、ここに来た子どもたち一人一人が、ここでこんな風に時間を過ごしたいなって考えるようになってくれることじゃないかなと思います。世の中にはこんなおせっかいなおばちゃんもおるんやなっていうことが、すごく心がすさんだ時にでも、ひゅっと思いだしてくれたらいいなと思います。本当はね、昔たくさんあった児童館のように、ふらっと帰りに寄れるような場所ができたらいいなぁと思います。

**8** 自分の視野や気持ちが広がる場でしょうか。こんな子もいるし、あんな子もいるなぁというのを知るのも発見ですし、みんなの調理の腕もすごいので、それも発見です。そういう意味では〝発見の場〟とも言えますね。

# 徳島県内の子どもの居場所

**1**. 始めたきっかけは?　**2**. どんな人が運営に関わっている?　**3**. 運営するにあたって大切にしてること　**4**. 運営していて、嬉しかったこと　**5**. より良い居場所づくりのために　**6**. 地域や近隣との関わり　**7**. 子どもにとっての居場所とは?　**8**. あなたにとってこの場は?

## ニコニコ子ども食堂（阿波市）

訪れる方は地元の家族や友達同士だけでなく、仕事終わりの方や旅行・留学にきた外国の方も。1回の開催に60人以上の人が訪れる。

ごちそうさま。おいしかった。

チームワークもばっちり。

その日のメニューに使われている食材を提供して下さった方々やスタッフの方々の名前が、ホワイトボードに記載されている。

ニコニコ子ども食堂は、ショッピングセンターの中で運営されている。子ども食堂開催日以外は、フードコートとして営業している。

**1** 町づくりというか、町の中に子どもがやってくるにぎやかな場所をつくりたいと思っていました。自分が子育てをしている中で、アレルギーのことや子どもの育ちを考えると、食事は大事だなと考えるようになって。加工品とか、スーパーで買ったものばかりでは、どうなのかな、と思っていて。それでも共働き家庭もとても多くて難しい状況もあるなと感じ、食事をしっかり食べてもらいたいという思いで始めました。

**2** 始めようと思った当初、私自身も移住してきたばっかりで、人脈もなかったので、移住を斡旋している観光協会をつてに、そこで出会った町おこしに関心のある方々と一緒に始めました。仕事を引退した方がボランティアに来てくださっています。

**3** “食”を大切に考えています。加工品はやめて添加物とかもないものを選んで、なるべく地元産や国産のもので、とこだわっています。忙しい家庭ではなかなか手間暇のかかる食事は難しいと思うので、ここでは、だしをとった味噌汁とごはんを基本に考えています。

**4** 毎回たくさんの人が来てくれて、おいしいと食べて帰ってくれるのが嬉しいです。みんなで食卓囲んで、団らんしてる風景が、一番の励みになります。あと、ボランティアスタッフさんも、一生懸命頑張ってくださっていて、みなさん材料さえ集まれば、ぱっぱっぱって作ってくれて。スタッフみんなで、協力してやっている“チームワーク”もとてもうれしいです。何よりも子どもが、にこにこして帰ってくれることが一番うれしいですよね。

**5** 家庭の事情などで、団らんを囲んでゆっくり食事のできない子どもたちにも来てもらえたら嬉しいです。今は食事を中心にしていますが、他にも宿題ができたりする場になっていっても良いかなと思っています。また、阿波町以外でもやりたいなぁと思いますが、始めるには、「場所・お金・人・食材」が大切です。一人ではできないので、協力してくれる人は欠かせません。

**6** もともと観光協会での出会いをきっかけにスタートしているので、町づくりや町おこしに関心の高い地域の方々と一緒にしています。

**7** ここに来ている子どもたちが将来、ここで育ったな、と思えるようになったらいいなぁと思います。そのためには、イベントのような単発的な感じではなく、定期的に継続してずっとすることが大切だろうなと思っています。

**8** 移住してきた私にとって、この場は、人とつながる場所になっています。違う地域からやってきて、地元の“おばちゃん”との関わりってすごく心強いです。郷土料理のアドバイスなど、地域の方々がいろいろと教えてくれるので、有り難いです。

設立年日／2018年7月25日
開催日／毎月25日
主催者／仕事を引退した主婦や子ども食堂に興味のある地元の方、地域活動を行うNPO法人
利用者／近隣の家族や子ども達、単身者、徳島県を訪れた外国の方など
食事内容／近所の農家さんから食材を提供してもらったり、農園で自給自足をしたりして栄養バランスのよい食事を提供している
料金／子ども無料・大人300円

# 徳島県内の子どもの居場所

**1**. 始めたきっかけは?　**2**. どんな人が運営に関わっている?　**3**. 運営するにあたって大切にしてること　**4**. 運営していて、嬉しかったこと　**5**. より良い居場所づくりのために　**6**. 地域や近隣との関わり　**7**. 子どもにとっての居場所とは?　**8**. あなたにとってこの場は?

## 〝ツリーハウスで遊ぼう!〟（阿波市）

**1** まちの人口が次第に減る中、このままなにもしなければ大変な未来になる危機感から、まちづくり未来会議を設立した。ショッピングセンターアワーズを中心に、人が集まる仕組みを考えるワークショップで出た意見から、ツリーハウスの森をつくることになった。この森は20年前に阿波町の住民と行政が協働して作ったビオトープの公園だが、その役割が薄れていた。この場所を子どもたちの遊び場として再生を始めた。

**2** まちづくり未来会議のメンバーの中には、NPOや他団体に属している人がいる。それぞれが得意な分野を受け持ち、組織の人にも呼び掛けて関わってくれている。土地の所有者アワーズさんの協力も大きい。

**3** 運営に携わってくれる、手伝ってくれる「人」を大切に考えている。たくさんの人たちがそれぞれにすごい能力を持っていて、そういう人を持っているので、そうにサポートして、関係をつなぐ係をしている。それから町をよくしていこう!という町に対する思いも大切にしている。

**4** 嬉しいことばかり。森の中で子どもたちの歓声を聞いていると、自然と顔がほころぶ。ツリーハウスや小屋づくりやターザンごっこをサポートしている未来会議ツリーハウスチームリーダーも、子どもたちが喜んでくれることが一番の励みだと思う。みなさん見返りなんかは期待していないので。手伝ってくれている、ボランティアのみなさんも同じだと思う。

**5** 子どもたちに、自然の中で遊んだ思い出を作ってあげたい。今はキッチンガーデンづくりだけの参加だけれど子どもたちも一緒に森づくりに関われるようにメニューを考えていきたい。

**6** 地域や近隣との関わりは、欠かせない。運営に携わってくれる、手伝ってくれる「人」をつないでいくと、町が活性化されると思っている。それぞれの人の良さ、町の良さを磨いていくことが大切だと。

**7** 居場所では、子どもたちに、好きなように過ごして欲しい。家の中ばかりはつまらないので、外に出て。自然の中で遊ぶ子どもを見ていたら、子どもは本当に遊びの天才だと思う。森のかずらで縄跳びをしたり。かずらの先に棒をつけて。なんでも遊びにする。

**8** 子どもたちの遊び場を作りたいというまちづくり未来会議の思いでできた場所。まだ完成はしていないけれど、チームリーダーを中心に子どもたちと一緒に作り上げていきたい。大人にとっては子どもの頃の冒険の心トムソーヤや赤毛のアンの世界をつくっているのかな。

年に一度ショッピングセンター横の森で開催される“ツリーハウスで遊ぼう!”。子どもたちや地元の方々が、自然の中でのひと時を過ごす。

自然の中では、子どもは遊びの天才!
良いもの、見つかったかな?

ニコニコ子ども食堂も焼き芋などを提供したり、地元の方々が子どもに向けた手作りの体験活動を開催。

家族連れも多く、子どもたちが自然と触れ合いながら体いっぱい動かして遊んだ。

# 『子どもの居場所』で出会う子どもたち

## ～運営者の声より～

### 『居場所』で子どもが経験していること

いろんな年代（世代）の
人と出会う
子ども同士の
コミュニケーション
を経験する

いつでも来れる場がある
マナー・社会性を知る

のびのび
自由に過ごす
家みたいに過ごす
ゆっくり過ごす
ほっとできる

ストレス発散できる
自分（素）を出せる
ありのままで
よいことを体感する

楽しむ
遊ぶ
食事をする
勉強する
自然の中で遊ぶ

みんなでわいわい、賑やかに
賑やかな団らん
ご飯を喜んで食べる

### 子どもたちに見られるうれしい小さな変化

子どもが明るくなってくる
子どもの気持ちが広がる
子どもの視野が広がる
人見知りだったが楽しそうに過ごすようになる
テストを見せにきてくれる
色々な話をしてくれるようになる
食後の歯磨きを自分からするようになる
何も言わなくても片付けを手伝ってくれる

### 子どもに見られる姿

甘えたい
いろいろ言われたくない
食のかたより・偏食
いろいろな顔を見せる
気分の浮き沈み
大人をよく見ている
我慢している

### 複雑な家庭環境

家族の形の多様化
一人ひとりの家庭が全く違う
多子家庭・ひとり親家庭
ステップファミリー
共働き家庭
晩ごはんがない
朝ごはんを食べていない
経済的に厳しい
時間の余裕がない
生活に余裕がない

徳島県・社会福祉法人徳島県社会福祉協議会・国立大学法人鳴門教育大学

## 『子どもの居場所』が求められる社会背景を知る

**地域の実情**

移住
人口減少

**現代社会の中で暮らす子どもや家族の実情**

共働き　親の忙しさ
家族の多様化
複雑な家庭環境
経済的困難
不適切な養育や虐待

## 援助者としての関わり

### 子どもへの関わりの基本姿勢

見守る　寄り添う
受け止める
臨機応変に関わる
無理強いをしない
育てたい子ども像を持つ

### よりよい活動のためにどんなことしてる?

記録をとる
計画を立てる
ミーティングをする
他機関と連携する

### 危機管理

安全面への配慮
有事の対応
防災訓練　食の安全

### どんな方が手伝ってくれる?

子どもの手が離れた人
生活に余裕がでてきた人
子どもや福祉に関わる
仕事をしていた人
子どもへの思いが強い人
別の社会活動で出会った人
社会貢献の経験がある人
町おこしに関心のある人
地元の人

## よりよい居場所づくりのための課題

### 利用促進のための工夫

個別に誘う
イベントをする
広報や宣伝をする
SNS等で情報発信をする
“貧困”を強調しない

### 『子どもの居場所』を運営する意義や魅力

毎日、毎回異なる楽しさ　町づくり
未来をつくる　社会貢献・奉仕の心
子育てする親を助けたい　子どもから学ぶ
自分自身の成長　自分の居場所

### 居場所づくりの心構え

使命感　この場を大切にする
やりたい、やってみたい!という思いを持つ
声をあげる　チャレンジする　行動力
タイミングが合う
見返りを期待しない
将来への展望を持つ
コーディネーターの役割
人とのつながりの大切さ　チームワーク
町の良さを活かす
スタッフの特技・能力を活かす
スタッフの存在の大切さ

### 運営における課題

できることの限界がある
継続することの重要性と困難
励みが必要
使用してもらいたい人に利用されていない
本当に必要としている人が来てくれるか不安
初回は大勢来てくれる
定員の問題
人数の把握の難しさ
対象者の枠を設けるか否か
食材の確保
場所のスペースや設備の問題
スタッフの高齢化
スタッフ自身の心理的ケア
資金の確保
どこで開設するか場所の悩み